

# 成し遂げた思いをこの男たちが語る！

この祭りに参加しようと思ったのは？



**赤坂** 約1年前に出演の話をしていただき、昨年の「ふるさと祭り東京」を見に行きました。全国の祭りが集まっています。感動したと同時に、石崎奉燈祭がこの場でできるのかという不安もありながら、「絶対に成功させる」という意気込みで準備がスタートしたことを思い出します。

奉燈は勇壮華麗で、誇れる祭りだと思っていますが、東京ドームで、本祭と同じ雰囲気が出せるのかなと心配しながら、今回を迎えました。

**野崎** 昨年、この祭りを実際に見て、「出たい！」という気持ちはありました。しかし、2基の奉燈が行くとすれば、担ぎ手や予算など、私には想像がでない範囲です。また、石崎町の皆さんに、大変なご迷惑をかけることになりました。「それでもやりたい！」という思いは変わらず、町内会や奉賛会と何度も会議を重ね、何

とか前向きな話になり、最後には「行かんかいや」と皆さんから言ってもらえたことが本当にうれしく、感動もしました。

**島崎** 東四区は、他と比べて小さい町内です。はじめは出演町内として手を上げるつもりはありませんでした。しかし、周りの熱い先輩方から「やってみんかい！」と背中を押してもらい、出演する決心を固めました。

**中西** 正直言って、私自身はこの祭りに行きたいとは、一度も言っていないんです。ただ団員から「行きたい。西一区が行かないと、だめやろ」という声が多くありました。それが一番のきっかけ。後は壮年会や町内の皆さんから「わっちゃん行くんたら、どんだけでも協力してやる」と言っていたとき、決心しました。

どんなことで苦勞しましたか？

**赤坂** 祭りの準備を進める上で、奉燈を運ぶ時、雪道の運搬が一番気になりました。また、日程的に、年明けすぐということで、非常に厳しいものがありました。いろんな危険を背負っての判断だったので、その辺が一番懸念したところでした。

**野崎** 奉燈という地元の財産を持つて行くわけです。何かあったらということを非常に考えました。特に、若者は8月の本祭も控えています。奉燈が壊れてしまえば、本祭に間に合わないということになります。青年団や町内の皆さんが一番心配するところです。それは、自身の心配でもありませんでしたが、その説明や対処方法が一番苦勞しました。



**島崎** 最初は、参加者を集めることが一番心配でした。いざ集め出すと、周りが頼れる人ばかりなので、苦勞も心配も解消しました。

**中西** 私も同じです。参加者を集めるのが大変でしたが、壮年会の皆さんがとても頑張ってくれ、本当に頼りになりました。

**野崎** どここの町内がこの祭りに出演するかを決めるのも苦勞しましたね。決まったのは6月。なぜなら、一番大事なものは8月の本祭。本祭前にも、もやとした気持ちもなくし、各町内が思い切って本祭を迎えてほしかったですからね。

**赤坂** 県外に出るという経験は、約27年ぶり。参加者200人が移動するということは大変なこと。東京に到着さえすれば、石崎の人の熱き思いや意気込みを、全国の皆さんに

間違えなく伝えられると思いましたがね。

**赤坂** 自我自賛ですが、私たちが石崎奉燈祭が、一番拍手が大きかった気がします。3月に開通する北陸新幹線に向け、七尾をPRするという大きな貢献ができたと思います。

**野崎** ここまで来るのに激論もありながら、皆さんに心配や苦勞をかけ、今日まで来ることができました。東京ドームでは、石崎町の皆さんが個人で応援に来てくれ、拍手や声掛けをしてくれました。石崎町が一つになったと感じた瞬間でもあり、素晴らしい町だと改めて感じる事ができました。これを、石崎町が仲良く安全に生活できるような町づくりへつなげたいです。本

**中西** 何より、奉燈を担ぐ諸先輩方から「良いイベント」と言ってもらえたことが、一番うれしかったです。不安もありましたが、みんなが楽しんでくれたことが、自分の中では一番うれしかったです。

## 密着取材

ふるさとを大切に思う熱い心が東京に集結！

**【11月5日(水) 19時】**  
東京ドーム関係者や石崎奉燈祭奉賛会、各町内の支部長などが集まり、初めての合同会議を開催。

**【12月12日(金) 20時】**  
約2カ月間、西一区や東四区では支部長をはじめとする若い衆が、本祭と変わらない準備をしてきた。

**【1月4日(日) 9時】**  
いよいよ東京に向け、奉燈2基が倉庫から出される。約100人の若い衆が参加し、安全祈願祭も行われた。

**【1月8日(木) 13時】**  
奉燈を組み立てるため、約40人が東京に到着。4時間で手際よく組み立て、2基展示した。

**【1月16日(金)～18日(日) 1日2回出演】**  
奉燈2基は回数を重ねるごとに息が合い、勇壮華麗な演舞で観客の心をつかみ、アンコールで湧いた。

**【1月17日(土)～18日(日) 2回出演】**  
若い衆が観客を魅了するのは、祭りばかりではない。豊年太鼓も披露し、観客から拍手喝采をあげていた。

**【1月18日(日) 18時】**  
演舞が終了し、祭りの余韻が残る中、若い衆は3時間かけて奉燈を解体。その後、七尾へ。

**【1月19日(月) 8時30分】**  
東京での出演、夜行バスでの移動で疲れている中、若い衆は最後の力を振り絞り、3時間かけて奉燈を格納した。

